

草地における雑草の侵入径路の解明

第3報 エゾノギンギシの生育相

今 堂 国 雄・丸 岡 詮

(九州農業試験場)

KONDO, K. and MARUOKA, A.

Research of the Course of Weeds Invading Grasslands.

(III) Growth Habits of *Rumex obtusifolius* L.

近年牧草地におけるエゾノギンギシの繁茂は著しく、この植物は肥大した地下部をもち、多量の種子を着生する。これの防除手段として、草地への侵入防止、侵入した場合の親株の早期除去および種子による伝播の防止が考えられる。本試験ではエゾノギンギシ防除の基礎資料を得るため、その生育相について調査を行なった。

1. 試 験 方 法

昭和47年9月13日ペーパーポットに播種、10月13日に50×50cmの間隔では場に定植し、30~60日おきに15~20個体を抜取り、草丈、莖数、莖葉重(冠部を含む)、根重を測定した。毎年6月下旬調査後5cmの高さで刈取りを行なった。

2. 結果および考察

莖葉部の重量は2月上旬より6月下旬にかけて増加し、最も著しい増加を示したのは5月中旬より6月下旬にかけてであった。これは生育ステージとよく一致し、生産量は開花始めとともに急激に増加する。6月下旬の刈取り後の再生は翌春の2月上旬まであまり大きくない。冠部重は2月上旬より6月下旬まで増加したが、刈取の影響が顕著で刈取後1ヵ月で28%減少した。

根部重量は播種当年はあまり増加せず、3月中旬より6月下旬にかけて急激な増加をみる。2年目も4月下旬より6月下旬にかけて著しい増加が認められた。6月下旬の刈取後の根重の動きは1年目と2年目で異なり、2年目では根重は3ヵ月にわたって減少を続けた。これは2年目になると刈取後最初の直根が貯蔵養分を再生に消費したのち肥大することなく徐々に枯死するためであろう。このように根は2年程度で新しい根と交替し、3年目以後の個体では数個体の集合した形となる。

莖数は1年目は5月中旬まで漸次増加して最高に達し、結実が始まると減少する。刈取後一斉に新しい莖が出現するが、10月下旬まで抽苔莖が次第に枯死して全莖数は減少する。10月下旬以後新しい莖の発生が始まり、3月中旬まで増加するが、抽苔の開始とともに全莖数は一たん減少し、5月下旬抽苔莖が結実すると再び新しい莖が出現し6月下旬の刈取りまでに最高に達する。刈取後は1年目と同様に、抽苔莖の枯死とともに全莖数も減少した。

生育ステージについてみると、開花始めは1年目は5月中旬、2年目は4月下旬と早くなった。種子は開花後30~40日で茶褐色となり、50日以上経過すると完熟する。

エゾノギンギシの部位別乾物重(g/株)の季節変化

年次	調査月日		調査部位									
	調査部位	調査月日	47.12.1	48.2.1	3.27	5.17	6.25	8.1	9.5	10.12	11.13	
昭和 48年	莖葉部(冠部を含む)		0.7	1.7	9.7	90.8	364.4	92.9	—	100.8	124.3	
	根 部		0.5	2.1	6.8	46.3	70.1	71.6	91.1	87.1	137.5	
年次	調査月日		調査部位									
	調査部位	調査月日	49.2.8	3.15	4.22	5.27	6.24	7.29	8.23	9.21	10.29	11.29
昭和 49年	莖 葉 部		38.3	66.7	179.1	504.2	714.5	76.0	76.0	32.1	41.4	25.1
	冠 部		59.5	69.3	84.6	141.3	186.0	134.2	123.0	134.9	173.4	205.6
	根 部		128.5	137.9	125.9	165.1	212.0	129.9	126.3	125.1	142.4	158.0